

1 自己評価及び外部評価結果 (1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松[福寿苑]		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成21年10月23日	評価結果市町村受理日	平成22年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のいきいきとした顔、素敵な笑顔が自然と引き出せて、嬉々とした生活を送っていただくように支援できればとの思いでいっぱいです。また物質的な面だけにとらわれず、創意工夫し心のこもった心の通う寄り添うケアに努めて生きたいと思えます。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 公表調査該当せず別途の基本情報をご覧ください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な事業所である。利用者と職員は学校の登下校時の見守りや、日常的な散歩、喫茶店への外出などで地域との交流を密に図っている。月1回の図書館への外出や、知人・友人に電話をかける支援をして、これまでのつながりを大切にしている。利用者の思いや希望を尊重し、手作りの計算問題を提供して、一人ひとり楽しめるようにしたり、ユニット毎に独自の献立をたて、楽しく食事ができる工夫をしている。終末期においては、協力医と連携のもと、看護師を中心に安心した看取りの体制作りに取り組んでいる。また、職員が管理者に気軽に意見を言える信頼関係ができていて、気づきや意見は運営に反映されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

なごみ

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月一回以上の職員会議の冒頭に全職員によって、運営理念、職員の心得を朗唱すると共に理念の共有及び介護に対する意識の高揚に努めている。	職員会議で全職員が理念と心得を唱和、確認している。利用者が住み慣れた地域で、その人らしく、居心地よく暮らせるよう、日々のケアの実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや保育園等の運動会に参加している。またチューリップやコスモス祭りなどにもドライブを兼ねて出掛けている。さらに近くの喫茶店に出向いたり、日常の散歩を行っている。	利用者と共に小学校の登下校時校門に立ち、見守りに協力している。保育園児の鼓笛披露や婦人の民謡グループの来訪時には、近所の方も来てもらい一緒に楽しい時を過ごせるようにしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員の方々に運営推進会議を通して運営方針等々をお話している。また地域が実践している小学生の登下校中の見守りなどに参加させてもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月、10月に開催した。利用者家族から事故の状況や生活の様子が知りたい等意見が寄せられ職員会議に回り、生活の様子についてはイベント等のアルバムを個人毎に作り家族にも見ていただくようにしている	会議で家族から出された意見は、さらに、職員会議で検討し、サービス向上につなげている。しかし、地域住民の代表に参加を呼びかけてはいるが、日程が合わず、4月開設後2回しか開催していない。	地域住民の代表が出席しやすい会議日程、時間を調整し、事業所への理解・協力を得られるよう働きかけ、2ヶ月に1回開催してほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市担当者に出席頂いている。利用者に生活の様子やアクシデントを伝えていることを通じて、さらに担当者から提言や助言を頂いている。	市担当者に個々の困りごとなどの相談をしているが、市と協力して事業所の持つ認知症ケアの知識・技術を伝える努力は、なされていない。	市に働きかけ、認知症の理解を深める催しを行うなど、事業所の持つ力を地域に向かって発信することを期待する。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束するような利用者は現在いない。今後も含めて身体拘束をしないケアのあり方を職員間また職員会議で検討し徹底理解を図っている。	身体拘束について、勉強会、会議で話し合い、職員全員が弊害を理解しケアに取り組んでいる。しかし、玄関の鍵は、事業所周圍に水路が多く、安全面の配慮から施錠されている。	利用者の様子の把握や職員の見守り方法の工夫で、できるだけ施錠時間を減らす努力を期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で勉強会やミーティング等を行い虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加している。当該事例には該当しないが、ほぼ類似利用者には制度を熟知し対応されるようアドバイスをしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する取り組み、医療連携体制、利用料が増加する場合、また退居を含めた事業所の対応可能な範囲について詳しく説明し理解を得られるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また出された意見、要望等には職員会議で話し合いを行い反映している。	家族には訪問時に声をかけたり、個別に便りを郵送し意見を聞いている。訪問が少ない家族には、季節毎に必要な物を持ってきてもらうことで話をする機会を作り、出された意見は会議で検討し改善につなげている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議、また個別面談を行い、意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞きだしたりするようにしている。	定期的な会議の他に、日頃から管理者が積極的に声をかけ、意見の言いやすい雰囲気を作っている。職員の意見から、リハビリ時に音楽をかけるように改善された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。また職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を尊重しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるように計画している。また研修報告をする職員会議の中で全職員が少しでも把握できるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や相互研修、事例検討を通して意見や経験をケアに活かしている。また公共機関の研修会に参加し、交流を持つことによりサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今までの生活状態を把握するよう努め、また心身の状態やご本人の、ご家族の思いに向き合い、職員が受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、また経緯についてお話を伺い事業所としてどのような対応が出来るかなど、次の段階の相談につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。またそういった場面が多くもてるようなセッティングや声かけに配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人等に電話をかけたりして、継続的な交流が出来るように働きかけている。	図書館に通う利用者に付き添い、本人や他の利用者の好みに応じて本を借り、みんなで楽しむ支援をしている。また、友人に電話をかける手助けをしたり、外出時には昔住んでいた所を訪れたりして、利用者の希望に沿う支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役になり、また注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られた方にも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容等々情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	声かけや雑談などで思いを聞いたり、察したりして。意思疎通が困難な場合は、家族から話を聞いて参考にしている。手作りの計算問題を提供し、一人ひとりが楽しくできるよう支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のバックグラウンドを知れば知るほど、その人への理解につながっている。この取り組みは、大変重要なことと考え、ご本人をはじめ、家族や地域の人の力を借りながら継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとり一人の生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行っている	利用者、家族の意見を聞き介護計画を作成している。職員の気づきや意見を会議で話し合い介護計画に反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子やご本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも職員が確認できるようにしており、職員間の情報共有を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市担当者、自治会長、民生委員等の参加により、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけの歯医者等での治療を受けられるなど、ご家族と連絡し通院介助を行ったり複数の医療関係と関係を密に結んでいる。	希望によりかかりつけ医、協力医を選択できる。かかりつけ医に受診の際は、状態に応じて看護師が付き添い情報提供を行っている。受診結果は記録に残し家族・職員間で共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状況変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいないときは、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために医師と話をする機会をもち情報提供すると共に、職員も見舞うようにしている。またご家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を向かえられるように、意思を確認しながら取り組んでいる。	重度化した場合や終末期については、契約時に利用者、家族の意向を聞いている。状況に応じて、本人、家族、医師、職員で話し合い方針を確認している。また、看護師が中心となり、安心して最期を迎えられるよう終末期の体制作りに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて、ケースの想定をしながら勉強会や話し合いを職員会議の中で行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を要請し、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を計画	避難訓練は消防署の協力のもと、昼間に利用者と共に1回行ったが、地域の方の参加や協力は得られていない。災害対策マニュアル作成や夜間を想定しての訓練も検討課題である。	早急にマニュアルを作成し、夜間を想定した避難訓練の実施や、運営推進会議で地域の協力体制についての話し合いを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個別性や守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いをしている	トイレ誘導時の声かけや、入浴介助なども個人の尊厳を大切にしながら行っている。また、個別写真の掲示にも慎重に対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりし、些細なことでも本人が決められる場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはもっているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時のご本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、おしゃれ等を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。出張理美容院により希望にあわせたカットなどしてもらえるよう連携を取っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを楽しく食べるを基本に、個々の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食べる雰囲気づくりを大切にしている。	ユニットごとに独自のメニューで食事を作っている。当日、利用者の好みに応じてメニューを変更することもある。利用者と共に準備や片付けを行い、同じテーブルを囲み楽しく食事ができるように工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。個別に主治医より補食品を出している方もおられるが、これだけに頼らず、ご本人の好きな物や食べやすいものを出すように工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類もご本人に合わせて検討している。	排泄チェック表をもとに利用者の様子から尿意を察知し、トイレへの誘導を行っている。利用者に合わせて、紙パンツ、パットの使用を工夫している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や腸の動きをよくするために、散歩などにも積極的に誘っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望や体調(血圧)に配慮しながら、安心感をもって入浴していただくよう工夫している。	週2回が基本であるが、希望すれば好きな時間に入浴できる。入浴を拒む利用者には、家族と話し合い、その人の生活習慣に合わせた入浴方法を検討している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり就寝されるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、ご本人の状態変化が見られるときは、記録すると共に看護師や医慮機関との連携を図れるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう出来る(洗濯、たたみ、お盆拭きなど)ことはやっていた。また外出や地域の行事などに、利用者の方と相談しながら積極的に参加している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、喫茶店や弁当を持って花見やドライブなど外出することを積極的に行っている。	日常的に散歩や喫茶店に出かけている。また、利用者の希望に沿い、チューリップ祭り、コスモス祭り、紅葉狩りなど四季折々にお弁当を持って出かけて楽しんでいる。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族ごとにさまざまな意向をもってはいるが、ご本人の安心や満足に向けて少額でも所持金を持っていただけよう家族と相談しながら支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にご本人自ら電話できるようにしている。また手紙のやりとりが出来るよう支援や、計画をしていきたい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けやテーブル等の配置は、皆さんが居心地よく過ごせるように、また自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。	利用者が作った折り紙を壁に飾り、活けた花をテーブルに置き季節感を出している。テラスには利用者に合った物干しを置いたり、座位姿勢を保つ足置きを作ったりして、居心地良く暮らせる工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間、また中庭には椅子やテーブルを配置し、一人で過ごしたり、仲のよい入居者同士がくつろげるスペースがある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れたもの、また写真や思い出の品々が持ち込まれ、居心地よく過ごしていただくよう工夫をしている。	病院や施設からの利用者が多く、馴染みのものは少ない。利用者の意向を聞きながら、家族に協力をしてもらい、孫の写真を貼ったり、手作りの手まりを飾ったりして、落ち着いた過ごせる居室作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者にとって、「何がわかりにくいのか」「どうしたらご本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況にあわせて環境整備に努め、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげている。		

1 自己評価及び外部評価結果(2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松[福寿苑]		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	2009年10月23日	評価結果市町村受理日	平成22年2月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のいきいきとした顔、素敵な笑顔が自然と引き出せて、嬉々とした生活を送っていただくように支援できればとの思いでいっぱいです。また物質的な面だけにとらわれず、創意工夫し心のこもった心の通う寄り添うケアに努めて生きたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

やすらぎ

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月一回以上の職員会議の冒頭に全職員によって、運営理念、職員の心得を朗唱すると共に理念の共有及び介護に対する意識の高揚に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや保育園等の運動会に参加している。またチューリップやコスモス祭りなどにもドライブを兼ねて出掛けている。さらに近くの喫茶店に出向いたり、日常の散歩を行っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員の方々に運営推進会議を通して運営方針等々をお話している。また地域が実践している小学校生徒の登下校中の見守りなどに参加させてもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月、10月に開催した。利用者家族から事故の状況や生活の様子が知りたい等意見が寄せられ職員会議に図り、生活の様子についてはイベント等のアルバムを個人毎に作り家族にも見ていただくようにしている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市担当者には出席頂いている。利用者に生活の様子やアクシデントを伝えていることを通じて、さらに担当者から提言や助言を頂いている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束するような利用者は現在いない。今後も含めて身体拘束をしないケアのあり方を職員間また職員会議で検討し徹底理解を図っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で勉強会やミーティング等を行い虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において理解を深めるようにしている。また行政が主催する成年後見制度の研修会に参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する取り組み、医療連携体制、利用料が増加する場合、また退居を含めた事業所の対応可能な範囲について詳しく説明し理解を得られるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また出された意見、要望等には職員会議で話し合いを行い反映している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議、また個別面談を行い、意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞きだしたりするようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。また職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を尊重しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるように計画している。また研修報告をする職員会議の中で全職員が少しでも把握できるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や相互研修、事例検討を通して意見や経験をケアに活かしている。また公共機関の研修会に参加し、交流を持つことによりサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今までの生活状態を把握するよう努め、また心身の状態やご本人の、ご家族の思いに向き合い、職員が受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、また経緯についてお話を伺い事業所としてどのような対応が出来るかなど、次の段階の相談につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。またそういった場面が多くもてるようなセッティングや声かけに配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人等に電話をかけたりして、継続的な交流が出来るように働きかけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいこう職員が調整役になり、また注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られた方にも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容等々情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のバックグラウンドを知れば知るほど、その人への理解につながっている。この取り組みは、大変重要なことと考え、ご本人をはじめ、家族や地域の人の力を借りながら継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとり一人の生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行っている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子やご本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも職員が確認できるようにしており、職員間の情報共有を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市担当者、自治会長、民生委員等の参加により、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけの歯医者等での治療を受けられるなど、ご家族と連絡し通院介助を行ったり複数の医療関係と関係を密に結んでいる。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状況変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいないときは、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために医師と話をする機会をもち情報提供すると共に、職員も見舞うようにしている。またご家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を向かえられるように、意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて、ケースの想定をしながら勉強会や話し合いを職員会議の中で行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を要請し、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を計画		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個性や守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いをしている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に言わせて声をかけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりし、些細なことでも本人が決められる場面をつくっている。さらに計算ドリルブームがこのフロアにはあり、みんなで計算を楽しめるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはもっているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時のご本人の気持ちを尊重し、できるだけ個性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、おしゃれ等を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。出張理美容院により希望にあわせたカットなどしてもらえるよう連携を取っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを楽しく食べるを基本に、個々の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食べる雰囲気づくりを大切にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。個別に主治医より補食品を出している方もおられるが、これだけに頼らず、ご本人の好きな物や食べやすいものを出すように工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類もご本人に合わせて検討している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や腸の働きをよくするために、散歩などにも積極的に誘っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望や体調(血圧)に配慮しながら、安心感をもって入浴していただくよう工夫している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり就寝されるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、ご本人の状態変化が見られるときは、記録すると共に看護師や医慮機関との連携を図れるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう出来る(洗濯、たたみ、お盆拭きなど)ことはやっていたい。また外出や地域の行事などに、利用者の方と相談しながら積極的に参加している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、喫茶店や弁当を持って花見やドライブなど外出することを積極的に行っている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族ごとにさまざまな意向をもっているが、ご本人の安心や満足に向けて少額でも所持金を持っていたり家族と相談しながら支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にご本人自ら電話できるようにしている。また手紙のやり取りが出来るよう支援や、計画をしていきたい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けやテーブル等の配置は、皆さんが居心地よく過ごせるように、また自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間、また中庭には椅子やテーブルを配置し、一人で過ごしたり、仲のよい入居者同士がくつろげるスペースがある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れたもの、また写真や思い出の品々が持ち込まれ、居心地よく過ごしていただくよう工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者にとって、「何がわかりにくいのか」「どうしたらご本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況にあわせて環境整備に努め、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげている。		